

[成果情報名] ガーベラ、バラ切り花への電解次亜塩素酸水処理で灰色かび病の発生を抑制

[要 約] ガーベラ、バラ収穫後の切り花に電解次亜塩素酸水 60ppm 溶液を散布または浸漬することで、生産者から小売店へ輸送する段階での灰色かび病の発生を抑制可能である。

[キーワード] ガーベラ、バラ、電解次亜塩素酸水、灰色かび病

[担 当] 静岡農林技研・花き生産技術科

[連絡先] 0538-36-1555、agrikaki@pref.shizuoka.lg.jp

[区 分] 関東東海北陸農業・花き

[分 類] 技術・普及

---

### [背景・ねらい]

ガーベラ、バラ切り花では、収穫時期により生産者から小売店へ輸送する段階で花卉に灰色かび病が発生し、商品価値を損なうケースが多発しており、その対策が課題となっている。そこで、切り花への電解次亜塩素酸水処理による灰色かび病抑制効果を明らかにする。

### [成果の内容・特徴]

- 1 ガーベラ‘サンディ’では、電解次亜塩素酸水を処理することで灰色かび病の発病が抑制され、電解次亜塩素酸水 10ppm 浸漬と比較し、60ppm での浸漬、または散布で抑制効果が高い（図1）。
- 2 ガーベラ‘キムシー’では、電解次亜塩素酸水 60ppm を浸漬、または散布することで灰色かび病の発病が抑制される（図2、3）。
- 3 バラ‘サムライ 08’では、電解次亜塩素酸水 60ppm を浸漬、または散布することで灰色かび病の発病が抑制される（図4、5）。
- 4 電解次亜塩素酸水 60ppm の浸漬、散布により、バラ、ガーベラ切り花への葉害等の発生はみられない（テータ略）。
- 5 これらから、ガーベラ、バラでは、収穫後の切り花に電解次亜塩素酸水 60ppm を浸漬、または散布することで、灰色かび病の発病を抑制可能と考えられる。

### [成果の活用面・留意点]

- 1 本試験は、所内イチゴで発生した灰色かび病から採取し、保存していた菌 (*Botrytis cinerea*) 株を培養し、得た孢子懸濁液 ( $2.3\sim 5.0\times 10^5$  個/mL) を切り花に接種、気温 23℃、相対湿度 100% 条件下で試験した結果である。
- 2 発病度は、山形農総研 西村らの報告 (園学要旨. 平 29 東北支部: 29-30. 2017) に準じ、発病指数 (0: 褐変なし、1: わずかに褐点が生じる、2: 褐点が多数でき、容易に確認できる、3: 花卉全体に褐点が生じる、または水浸状病斑が生じる) を調査し、次の式により求めた。

$$\text{発病度} = \Sigma (\text{発病指数} \times \text{花卉数}) / (\text{調査花卉数} \times 4) \times 100$$

- 3 本試験は、電解水生成装置ピュアスター (森永乳業株式会社) を使用した。

[具体的データ]

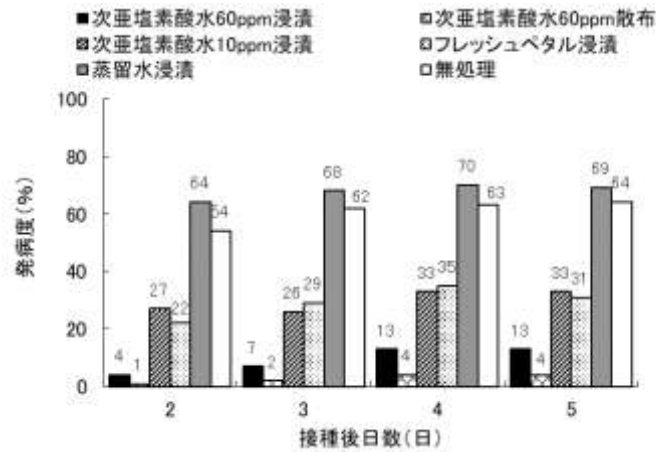


図1 ガーベラ‘サンディ’ 灰色かび接種後発病度の推移  
試験開始:2019年7月22日

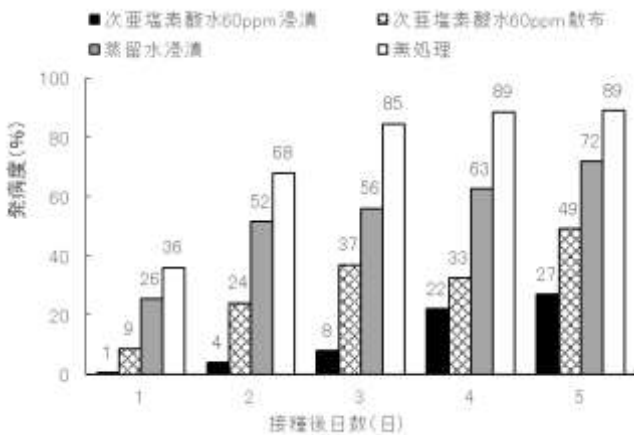


図2 ガーベラ‘キムシー’ 灰色かび接種後発病度の推移  
試験開始:2021年11月9日



電解次亜塩素酸水浸漬   電解次亜塩素酸水散布   蒸留水浸漬   無処理

図3 灰色かび接種4日後のガーベラ‘キムシー’ の発病状況

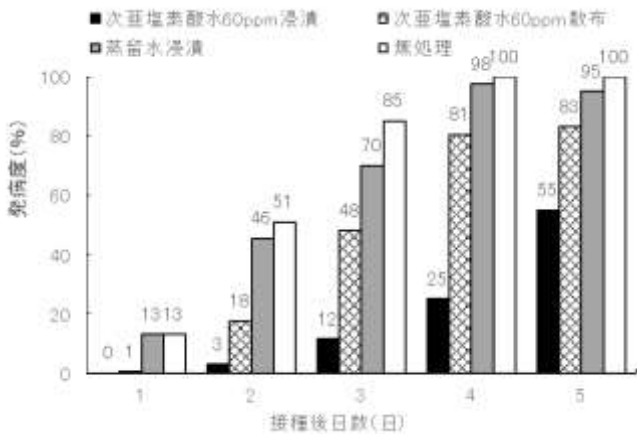


図4 バラ‘サムライ08’ 灰色かび接種後発病度の推移  
試験開始:2021年11月9日



電解次亜塩素酸水浸漬   電解次亜塩素酸水散布   蒸留水浸漬   無処理

図5 灰色かび接種4日後のバラ‘サムライ08’ の発病状況

[その他]

研究課題名：施設花きの高度環境制御による周年生産および日持ち性向上技術の確立

予算区分：国委（2019-2021年度）

研究期間：2019-2021年度

研究担当者：鍋谷宏美、入谷明里、寺田吉徳、梅田さつき、岩崎勇次郎、武藤貴大